科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	テストテイキングⅠ（全・英）-E3 Test Taking I (All Faculties, English)-E3			担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 特定外国語担当講師 吉田　亞矢		
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	国際コミュニケーション			使用言語	日本語及び英語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	水2	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

国内外の大学院への進学や学術研究を目的とした海外留学に求められる英語の試験（TOEFL: Test of English as a Foreign Languageなど）に関連した内容を教材として使用しながら、総合的な英語の運用能力を育成することを目的とする。受験対策の指導にとどまることなく、学問の場で求められるさまざまなトピックを扱った内容の読解力や聴解力、さらに留学中に課題として要求されるであろうアカデミックライティング（論文執筆）技能や語彙力の強化も目指す。

[到達目標]

・学術場面における英語の四技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養う
・海外留学を視野に入れ、学問の場で必要とされる英語力を理解する
・効果的な英語の学習方法・学習方略を習得する

[授業計画と内容]

本授業では、学術場面において必要とされる英語の四技能を総合的に養うため、以下の流れに沿って授業を行う。

【授業前半】
毎回の授業前半で課題（読解問題）の確認を行うとともに、語彙テストと音読練習などを行う。
1. 語彙テスト
『京大・学術語彙データベース基本英単語１１１０』に収容されている英単語・英語表現の中から出題する。
2. 音読・シャドーイング
コンピューターを活用しながら、国際ニュースのテキストを用いて音読ならびにシャドーイングを行う。
3. 読解問題の確認
毎回、TOEFL iBTの読解問題についての解説を行う。

【授業後半】
毎回の授業後半では、以下の各項目について、TOEFL iBT問題の解説・演習を行う。受講者の理解の程度に応じて週数を充てる（週数は【　】内に示す）。なお、各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。

（１）事前学習診断【２週】
（２）聴解力の育成【３～４週】
ノートテイキング等の聴解方法を解説し、TOEFL iBTで出題される問題の演習を行う。
（３）スピーキング力の育成【３～４週】
短い制限時間の中で意見をまとめる独立タスク（Independent task）、ならびに学術的な題材の読解・聴解を行い、その内容に関する口頭要約を行う統合タスク（Integrated task）の解説・演習を行う。

テストテイキングⅠ（全・英）-E3(2)へ続く↓↓↓

（４）アカデミックライティング力の育成【３～４週】
制限時間内で300語程度のライティングを行う独立タスク（Independent task）、ならびに学術的な題材の読解・聴解を行い、その内容について150-225語程度でまとめる統合タスク（Integrated task）の解説・演習を行う。
（５）期末試験【２週】
（６）フィードバック　※方法は別途連絡します。

毎回、授業の冒頭で『京大・学術語彙データベース基本英単語１１１０』に収容されている英単語・英語表現の中から単語テストを実施する。その後、『CNNニュースリスニング』を用いて音読ならびにシャドーイングを行う。また、TOEFL iBTの公式問題集を用い、四技能の総合的な育成を目指す。

毎回の授業では、単語テストと音読・シャドーイング、四技能を総合的・統合的に活用するタスクを行う。

履修者には、毎回、授業内外でのタスクに積極的に取り組むことが期待される。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加は前提である。その上で、課題提出状況（約20%）、語彙テスト（約30%）、期末試験（約50%）により総合的に評価する。正当な理由なく４回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。

[教科書]

Shuji Narita 『Brush up Your Academic English with the TOEFL iBT Test Format』（朝日出版社）ISBN: 978-4-255-15563-0
京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 『京大・学術語彙データベース基本英単語１１１０』ISBN:978-4-327-45221-6
CNN English Express（編） 『CNNニュースリスニング 2017年春夏号』（朝日出版社）
※上記の他、授業内で使用する教材をこちらで用意することもある。

[参考書等]

（参考書）
金丸敏幸、Educational Testing Service（著） 『TOEFL ITP(R)テスト 公式テスト問題＆学習ガイド』（研究社）ISBN:978-4327430733
田地野彰、ティム・スチュワート、デビッド・ダルスキー（編著） 『Writing for Academic Purposes ―英作文を卒業して英語論文を書く』（ひつじ書房）ISBN:978-4894764903

[授業外学修（予習・復習）等]

教室外での語彙学習と復習を含め，総学習時間は30～45時間を目安とする。

[その他（オフィスアワー等）]

本コースはTOEFL等の英語能力試験を受験する学生を主対象としたコースです。履修者には積極的な授業参加を期待しています。

テストテイキングⅠ（全・英）-E3(3)へ続く↓↓↓

テストテイキングⅠ（全・英）-E3(3)

[主要授業科目（学部・学科名）]